

KOBE YMCA NEWS



神戸青年 No.617

2012.7・8 July・Aug.

発行所 日本YMCA同盟 東京都新宿区本塩町7
THE YMCA神戸版 発行人/水野 雄二 編集人/櫻井 英治
神戸YMCA 〒650-0001 神戸市中央区加納町2-7-15
TEL. 078-241-7201 FAX. 078-241-7479
URL http://www.kobeymca.org 印刷/わかばやし印刷

神戸YMCA 年 間 聖 句
確かに未来はある。
あなたの希望が断たれることはない。(箴言23章18節)

定期総会開催

神戸キリスト教青年会の定期総会が5月31日(木)午後6時30分から開催されました。



末岡成夫牧師(近畿福音ルーテル三田北摂教会)による礼拝でのメッセージは、混沌とする世にあってYMCAのなすべき業を示してくださいました。その後、武田寿子会長が議長を務め、議事では役員選任に関する規定の会則改訂などが承認されました。また、以下の方々が役員(任期2012年6月から2014年5月)に選任されました。(50音順。再任含む。敬称略)

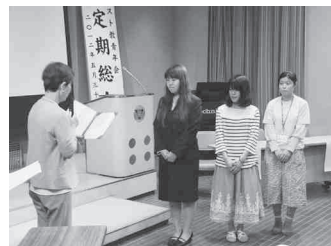
常議員

阿部 俊、上杉 徹、鶴丹谷剛、大野 勉、岡田 佑一郎、小澤昌甲、尾上尚司、川崎孝子、草野 修、熊谷親啓、鈴木博和、島田 恒、清水泰人、武田寿子、多胡葉子、長井慎吾、中尾秀一、中道基夫、橋崎頼子、馬場一郎、濱 浩一、広瀬一雄、藤井久子、水野雄二、森 愛子、森 恭子、安行英文、山口 宰、吉田昌義

監 事

中條道雄、山本常雄、柳谷利起

総会では、ボランティア奨励賞や日本YMCA同盟表彰、同盟認証ユースリーダーの紹介が行われ、YMCAが多くのボランティアによって運動を広められていることを改めて感じる時となりました。新たな一年も皆様とともに、力強く歩んでまいりたいと思います。(ボランティア奨励賞の受賞者詳細は4面)



ボランティアリーダートレーニング・委嘱式

5月20日(日)「ボランティアリーダートレーニング・委嘱式」が三宮本館で行われました。三宮・西宮・西神戸・三田・余島に所属するユースボランティアリーダーと、震災活動を主として活動している(通称:震災リーダー会)リーダーOB・OGが加わり、総勢100名の参加がありました。開会礼拝の、水野総主事による奨励は「マタイによる福音書7章7節~12節」を基に「求め・探し・門をたたく」自ら動き出そう、創り出そうとする者=神戸YMCAユースボランティアリーダーであるとの話がされ、その次の基調講演では、武田理事長から「YMCAのリーダーに必要なこと~Think Globally Act Locally」というテーマで、自分自身→自分の周囲→地域→世界に目を向けながら課題に関心を持つ事、そして神戸YMCAが、健康・福祉・教育・国際等の視点から取り組んでいる様々なプログラムの紹介を通して、これからの課題について話がされ、その課題に取り組んでいくのは、若者=ユースボランティアリーダー「あなたたちにできることは何でしょうか」とリーダーたちに課題を投げかけました。



昼食(ワイズメンズクラブからのご厚意による、サイコー亭の特製カツカレー)を挟んで、午後からは各リーダー会に分かれて「今の自分たちにできること」について話し合い、アクションプランを立て発表を行いました。そのアクションプランは、リーダーたちが考える新たなキャンプやプログラム、そして自分たちを成長させるためのプラン等様々でしたが、YMCAのボランティアリーダーとして、まず自分を知ること。そこに集う仲間には、自分と違った個性を持った人が居て、共にボランティアをすることを感ぜながら、対象となる子どもたちの今を知り、「自分たちに何が出来るか」という課題と希望を持ってそれぞれの活動に向かうことが発表されました。未来ある子どもたち、地域、世界を担う若者=神戸YMCAボランティアリーダーの歩みをどうぞこれからもよろしくお願いたします。

5月8日 創立記念日礼拝 参加談

今回この創立記念日礼拝に参加させていただき、神戸YMCAの126年間の幅広い活動を知ることができました。また礼拝に出席されている方や様々な方の話を聞く中で、私たち学生ボランティアリーダーと同じ“想い”を持って活動している仲間がこんなにも多くいることを知り、頼もしく感じました。

岡山YMCAの正野理事長の話にもあったように、神戸YMCAは阪神淡路大震災という困難を乗り越え、今に至ります。私は先人たちが守り、育ててきたこの神戸YMCAの一員として活動できていることを感謝し、今後もこの神戸YMCAの中でがんばろうという決意が生まれました。

昨年、第28回のタイワークキャンプに参加させていただき、そこでは普段の生活では体験できないような多くのことを学ばせていただきました。今回の第29回のタイワークキャンプの報告や、ワイズメンズクラブの方の話を聞いて自分がキャンプに参加したことを思い出し、こんなにも貴重な経験をさせていただいたことに改めて感謝の気持ちが込み上げてきて胸が熱くなりました。また、みなさんが心から私たちのことを応援して下さいました。

余島リーダーの活動を続けられているのも、多くの方たちの支えや応援があってできているものだと感じています。私は今年の夏で余島リーダー会を卒業しますが、社会に出てもこの神戸YMCAの一員として、今までの経験を活かしていきたいと思えます。

余島キャンプリーター会 藤野 宏美

スキーキャンプや余島キャンプ、そして、大学生時代には余島のユースリーダーとして、どっぷり4年間を過ごすなど、学生時代はいわば名実ともにYMCAっ子であったと言えそうです。そんな学生時代を経て、社会人となってからは、幾つかのYMCAの委員会も参加させて頂きながら、特にこの2004年には、入会者の神戸ワイズメンズクラブの会長職を拝し、YMCAとの関わり合いが尚一層濃くなっている次第です。

これら学生時代のYMCAとの関わりを通じ、様々な学びを頂いた事が、人生の随所に大きな影響を与えていると言っても過言ではありません。その学びは、いわゆる学校での学びとは異なり、むしろ人生における何か大切な物を「感じた」という表現が合っているように思います。

今年1月7日に開催された125周年記念音楽イベント「Feel the YMCA, Feel my life」(一部省略)という表現で、その思いを述べさせて頂きました。

大人になり、学生時代とは違った側面や立場で、YMCAとの関わりを持つようになってきた今、YMCAに対して何があるのか、その中から一つ言える事は、幼い頃からYMCAが持つ最大の特質は、YMCAの真の魅力を感じ性として、しつくり落としこんでいる事ではないかと思えます。既に家族2世代、3世代にわたるYMCAの様々なプログラムに関わり、多くの証といえるのではないのでしょうか?

今、時代の変化と共に、YMCA自身が抱える様々な課題も多く存在します。そんな中、自分の感性の中にうまく馴染んでいるYMCAの魅力というものを、様々なプログラムや行動を通して、多くの人々に伝えていく事は、今自分が出来る事の一つなのではと思う次第です。

現在、ワイズメンズクラブメンバーの立場から、多くのユースリーダー達の接点も増えてきました。自分なりのYMCA感性を、若いユースと喧嘩話をして、時でもありませぬ。



神戸ワイズメンズクラブ前会長
鶴丹谷 剛
私のYMCAとの関わり
合いは、小学校4年生に
加した水泳教室に始まり、
以降、高校生まで参加した

Feel the YMCA

～ 同盟表彰 ～

2年に一度行なわれる日本YMCA同盟による会員の表彰があり、神戸YMCA推薦の方々には以下のとおりです(敬称略)。さる6月17日(日)に東山荘で開催された同盟協議会(同盟委員会)の席上で授賞式が行なわれました。

25年継続会員賞

安原謙二、間島光代、ジャベリ・サンジープ、稲葉文子、生駒道弘、林 文子、千草壽々子、坂部つや子、松本登代子、岸田千鶴子、フィッシャー・ヤン、相澤幸作、伊藤昌子、榎本聡子、北野七生、宮村勝猪、ジャベリ・キシヤン、渡辺早規子、中坂律子、井上美代、船井道子、内田美紀、谷澤実佐子、横川エツ子、西 美鈴、岸田照雄、中山勝之、長沢百合子、ジャベリ・バーベン、山本弥恵子、熊谷郁子、齋藤 勲、丹羽和子、川島憲志、由利二郎、原田 太、吉田 透、馬場一郎、足立康幸、足立完子、上杉直子、生藤征夫、浜田敏子、石光俊夫 以上、44名

25年勤続者賞

神野敬子 以上、1名

50年継続会員賞

草野 修、小泉啓子、山口 徹、大林富雄、鳩田将雄 以上、5名

青少年奉仕賞

阿部 望、河合睦文、河合純子、岩田健司、星加宗之、山崎往夫、藤岡嘉明、牧田 稔、阿部智昭、武田寿子 以上、10名

2011年度YMCA国際協力募金へのご協力ありがとうございました

【収入】 (単位:円)

Table with 2 columns: Category (1) 一般募金 (指定なし), (2) 指定募金, 合計 and Amount (2,673,561, 912,303, 3,585,864)

【支出】 (単位:円)

Table with 2 columns: Category (日本YMCA同盟拠出金, タイワークキャンプ・及びボランティア・チェンマイ派遣, etc.) and Amount (350,000, 1,060,000, etc.)

訪問地...アメリカ合衆国ワシントン州シアトル市...今年夏の募集は締め切られております。

5月13日、神戸YMCA三宮会館にて「シアトルYMCA訪問団歓迎会」を開催しました。両YMCAから30名余りの方々が集い、これまでの数々の交流プログラムを振り返り、これ以上映ることは、懐かしい顔が映し出される度に、歓声が起りました。今回の歓迎会で新しく出会った方々も、また十数年ぶりに再会を果たされた方もおられ、それぞれが互いの関係を強め繋げることを約束されました。シニアプログラムでは、過去300名以上のメンバーをシアトルに送りだしてきました。今夏も参加するメンバーは、新しい友に出会い、交わり、ともにさまざまな気づきが得られるように願っています。



ソナタ 奏鳴曲 No.52



総主事 水野雄二

「よるべなさ」ということ

私事ながら、この3年間に4人の孫が与えられ、乳幼児の育ちを間近に見ることとなりました。子どもたちは昨日できなかったことが今日はできるようになり、その「獲得」に皆が大いに喜びます。一方、90歳になる母を見ていますと、今までできていたことが日々難しくなっていく老いの現実に「喪失」の哀しさを感じます。そしてそれは「能力」だけではなく、会社や教会、友人、親戚、家族という大切にしてきた「関係性」も徐々に失っていくプロセスを味わうこととなります。

神戸YMCAに「ホームヘルパーの事務所」があって、居宅介護・訪問介護のサービスをしています。利用者は圧倒的に女性で80歳以上が多く、一人暮らしが80%近くとなっています。「足が悪くなり、初めてヘルパーのお世話になりました。子どもなき者です。できるだけ皆様にご迷惑をお掛けしないように念願して参りましたが、お心温かく行き届いたヘルパーのお世話になり感謝しています。」の言葉が寄せられています。

評論家の芹沢俊介さんの新書『家族という意志』で、著者は3.11以降の大きな不安感情に二つあって、「はかなさ」と「よるべなさ」という言葉で表されると言います。「よるべなさ」とは、居場所が見出せない、受けとめ手がない状況を示していますが、著者は英語のhelplessnessを当てています。核家族化が極度に進展した日本社会にあって、特に高齢者に「よるべなさ」を感じさせる現実があります。一つ屋根の下に住んだとしても、いのちの受けとめ手になろうとする誰かがそこに「いる」と感じられなければ、居場所感が得られない。『そこに受けとめ手が「いる」ということ、これだけが、いのちの存続つまり「ある」といういのちのいとなみを可能にする...』(原文)

よるべない時代を私たちは生きているのかもしれませんが、しかし、YMCAは地域にあって、できる限り「寄る辺」でありたいと願っています。介護保険改定など制度の課題を抱えつつ、今日もヘルパーの皆さんはどんな天候にも関わらず、YMCAから出かけていきます。

「神戸市・シアトル市の姉妹都市提携55周年を記念して」

ウエルネスセンター三宮	☎078 (241) 7202
YMCAホームヘルパーの事務所	☎078 (241) 7237
ランゲージセンター	☎078 (241) 7204
専門学校	☎078 (241) 7203
西宮YMCA	☎0798 (35) 5987
三田YMCA	☎079 (559) 0075
余島野外活動センター	☎0879 (62) 2241
国際・奉仕センター	☎078 (241) 7204
ウエルネスセンター学園都市	☎078 (793) 7401



Information

西神戸YMCA	☎078 (793) 7402
西神南YMCA	☎078 (993) 1560
須磨YMCA	☎078 (734) 0183
YMCA保育園	☎078 (794) 3901
西宮YMCA保育園	☎0798 (35) 5992
西神戸YMCA保育園	☎078 (792) 1011
YMCAちとせ幼稚園	☎078 (732) 3542
西神戸YMCA幼稚園	☎078 (997) 7705
西宮つとがわYMCA保育園	☎0798 (26) 1016

2012年度 ボランティア奨励賞

相澤幸作さん、陳 創生さん (ウエルネスセンター三宮)

昨年度で閉講したウエルネスセンター三宮の“A LIFE BOXING”において、元担当者浅川さんが急逝された後の10年間、60分のプログラム運営を毎週ボランティアで担い、会員活動促進に貢献されました。

高砂健人さん、藤井祐樹さん (西神戸ランチ)

小学生時代にサッカークラブメンバー、そして西神戸ランチ登録チームメンバーとして活躍し、大学生になって、日常のサッカークラス、サッカー交歓会などにご奉仕をいただいています。ある時には先輩として、ある時にはリーダーとして、子どもたちに寄り添い、ともにサッカーを楽しみ、成長する姿勢を持って、プログラムを担ってくださいました。

東日本大震災復興支援ユースボランティアリーダー会の皆さん

大学生を中心としたユースが、震災からの復興を自らのことと捉えて、自発的で継続的な活動を行っています。街頭募金や他団体との協働プロジェクト、また、被災に見舞われた子どもたちを対象としたリフレッシュキャンプ運営など、広い視野を持ち、未来への希望を体現しています。

永田琴子さん、藤野宏美さん (余島リーダーOG)

東日本大震災復興支援Tシャツを作成にあたり、ロゴデザインや販売促進ポスターの作成などに尽力いただいています。

神戸市立工業高等専門学校水泳部の皆さん (ウエルネスセンター学園都市)

「わいわいまつり」「幼少年アクア遠足」「いるか記録会」「水中大運動会」などのイベントを手伝っていただき、YMCAに来ている子供たちや地域の子供たちと一緒に遊んだり、ふれあったりと、お兄さんリーダー、お姉さんリーダーとして大活躍していただきました。今年度もウエルネスセンターの幼少年イベントにお手伝いしていただく予定です。

岩沖富子さん 吉山理子さん (YMCA保育園)

地域の子どもたちに字を書くことの楽しさを伝えたいというご好意により、太山寺児童館で4歳から1年生までを対象とした「えんぴつクラブ」をボランティアとして開講していただき、今年で9年目を迎えます。ただ、教えるというだけでなく、子どもたち一人一人の個性を尊重し、あたたかく成長を見守りながら丁寧に指導される姿は、子どもたちはもちろん、保護者の方々からも厚く信頼されています。子育てのよき相談相手としても地域にとってかけがえのない存在となっています。

2012年 兵庫県功労者表彰

5月3日、2012年兵庫県功労者が発表されました。神戸YMCA関係では次の3名の皆様が受賞されました。

青少年育成功労：武田 寿子さん (会長・公益財団法人理事長)

山口 徹さん (前総主事)

教育功労：水野 雄二さん (総主事) おめでとうございます。

Photo Topics



余島春のファミリーデイ開催!

晴天の5月3日、余島に多くのファミリーが集いました。今回は「春の料理祭り」をテーマに、テーブルコーディネーターの前川育子さんをお迎えして、自分たちの食器をデコレーションしたり、自然の産物を使って箸置きやナブキンリングを作ったり、ペンや色紙でお皿を飾ったり、食卓を盛り上げました。

昼食はアメリカンBBQとダッチオープンカレー、お父さんグループは、ダッチオープンで2kgの肉塊を、調度いい温度で焼けるようにローストビーフに挑戦です。皆の前でオープン! 歓声とともに舌鼓がきこえる程の出来映えでした。

昼食後は余島ネイチャープログラム「森の小道を歩こう」に出かけ、鳥の巣や狸の糞などに触れながら、秘密の道を歩きました。森を抜けると、目の前には真っ青な海、抜けるような青空、そして白い砂浜。瀬戸内の悠然たる自然が私たちを迎えてくれました。(阪田晃一、撮影協力: 辻沙喜子)



沖縄へ修学旅行に行きました : 高等学校

6月6日から8日までの間、神戸YMCA高等学校は、沖縄へ修学旅行に行ってきました。仲間のことを気遣っていたり、時間をとても気にしながら行動をしていたりする様子、修学旅行を終えて、「楽しい修学旅行は今まで初めてだった」と感想を述べていた生徒の笑顔が印象的でした。(水野宏明)



一步踏み出す勇気のはなし

5月27日、藤沢実果さんをゲストに、三田市民活動推進プラザ主催の第一回講演会「一步踏み出す勇気のはなし」を開催しました。「世界中の夢を叶えるために、今のわたしに出来ることを考え、たくさんの方々その思いに共感してくれたおかげで、夢を現実に変えてくることができました」と語りかける藤沢さんに、参加した方は多くの感動と勇気を与えられました。(清水浩一)



第25回宝塚バザー開催!

宝塚YMCAチャリティーバザーが5月26日に阪急逆瀬川駅前で行われました。ユースリーダーを中心とした子どものコーナー、ワイズの方々を中心とした物品販売、有名パティシエによるクレープの実演販売や、ダンツの当選確率で人気のラッキー抽選会でフィナーレをかざり、笑顔にあふれたバザーとなりました。(谷川 尚)

人事のお知らせ

《退職》 今までのお働きに感謝し、今後のご活躍をお祈りいたします。ありがとうございました。

4/30 木ノ本由美さん (YMCA保育園)